

参加生徒の感想

英語のうまさというよりも、恥ずかしさに打ち勝つことのほうが、何倍も大切なのだということを感じました。いわゆる『コミュカ』が本当に大事になってくることに気付かされました。そして、世界共通の交流ツールがこの英語だと、改めて思いました。ファシリテーターの方をはじめとして、グループリーダーたちも世界各国出身者でした。でも全員が英語を普通にペラペラとしゃべっている。つまり英語さえできれば世界中のいろんな土地で活躍できる。英語を学ぶ意義、これについても深く考えさせられました。

ダイバーシティについてのプログラムが一番印象に残っている。一応今までも差別偏見なく生きてきたつもりだったが、日本という狭い世界での心持ちだったんじゃないかと思わされた。グローバル化している世界の中で、国の区別があまり意味をなさなくなった時、自分が全く知らない言語、文化、世界に触れて、今までの日本の尺度に照らして考えたり、変な先入観を持ってしまったりすることがあるかもしれないと考えさせられた。そんな事にならないためにも、海外に出て、より広い視野を持ちたいと思った。

zoomでの交流で、さまざまな国に住む方(日本人の方も含む)のお話を伺い、質問もさせていただける機会はあまり多くはないのだろうか。この企画の何がよいかと言われれば、一番は「世界に目を向けられる」ということであろう。われわれは「この国にはこういう文化がある」ということを知識として知っていても、そこにいる人々が語る思いや実情を聞ける機会はまずないと言っていいだろう。そのような場面がこの5日間で4回もあったことが本当にありがたい。

言葉で表しきれないほど楽しかったです。自分のプレゼンでは、スライドを使って笑顔で言いたいことを伝えることができました。でも、一番うれしかったのはあの部屋の雰囲気です。みんなが心から楽しんでいるのを強く感じて、私もノリノリで参加できたし、こんなふうを感じられる環境は本当に貴重だと思ったら、泣きそうになりました。この5日間の気持ちを忘れずに日々を過ごしていきたいと思いました。

アイデンティティーに関するディスカッションが印象に残っています。英語を話せるかどうか英語のスキルが高いかどうか以前に、自分自身を知ることがすごく大切だということを実感しました。自分とは何か..そう問われてすぐに答えることができないけれど、最も大切なことです。私は初め自分自身の意見1つも思いつきませんでした。けれど周りの人たちとのディスカッションを通して、これは自分の強みだ!これが自分だ!と思えるようなものを、少しではあるけれど見つけられたのではないかと思います。

このプログラムでは、英語がどれくらいできるかではなく、自分自身の考えを常に持っているかが一番大切になると思います。ファシリテーターやグループリーダーは、ネイティブの人はいてもわずかで、日本人にもなまりがあるようにそれぞれなまりがあります。学校ではネイティブの英語を聞くことが多いですが、ネイティブではないの方が世界に多くいるので、こちらの方が実践的だなと思いました。自分から能動的に考え、それを伝えたり、聞いたりする良い実践の場だと思います。学校の勉強だけでは絶対に経験できない、貴重で夢のような体験になると思います。楽しみながら、お互いに刺激を与え合う素敵な時間を過ごしてください。それと、出会いを大切にしてください。